

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403103		
法人名	社会福祉法人ハートフルなこそ		
事業所名	グループホームわいの家 ぬくいユニット		
所在地	福島県いわき市植田町小名田13-2		
自己評価作成日	令和4年12月16日	評価結果市町村受理日	令和5年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和5年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

わいの家 = 私の家という理念を反映し、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの生活リズムで過ごすことが出来る様支援している。生活環境においては、自宅で生活していた延長線を意識し、ソフト面とハード面から生活パターンを職員全員で作成し支援している。ご家族との面会もゆっくりとしたペースでくつろいでいく方が多い。(コロナ禍以前)
 地域とのかかわりは地区の自治会をはじめ、運営推進会議、近隣の高校や保育園の方々と交流がある。認知症カフェも地域交流に大いに役立っている。また、同じ地区のグループホームとの交流会なども試み、地域社会の中で暮らすというコミュニティーを重要視している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 わいの家 めくい

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に人事担当と管理者から理念の説明をし、方針を知ったうえで業務にあたる。玄関や事務所に理念を掲示し、常に確認が出来るように工夫している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防を行いながら近隣の高校生や保育園児の訪問を受けている。(少人数で短時間。庭での太鼓の披露)また、自治会との危険箇所などを確認す図上訓練など実施している。認知症カフェは今年度1回のみ開催となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェにより認知症の理解を広く実施していたが今年度は1回のみ。認知症サポーター養成講座の依頼を受け、高校生に対し認知症について理解を深めていただく活動等により貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止のため2回のみ開催であった。職員の研修の様子や研修内容など、広報誌でお知らせすることもあるが、今年度は話し合いは出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員や福祉系の職員が参加してくれているため情報を発信している。認知症カフェで地域包括ケア推進課の職員や、今回はコロナ感染により保健所や介護保険課との報告や指示などにより協力体制を得ることが出来た		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギをかけずに、自由に行き来が出来る環境を作っている。職員教育としては法人内の委員会に出席し情報を共有したり、施設内でDVDによる勉強会を開催するなど継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で年2回程度虐待防止の研修を実施している。委員会によりポスターを作成し、職員が見えるところに張るなど市、意識付けに役立てている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	集団指導の際に渡される資料を会議の際に伝達する。また、ZOOMなどによる研修が開催される時は、職員を積極的に参加させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を提示し、入居に関する説明をしている内容の改定の際は、文書により改定の内容を説明し同意を得ている。同時に相談窓口を明確にし、相談しやすい環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関先にねっせーにボックスを設置しているがコロナ禍において活用されていない。面会時や電話連絡時などは気軽にお声がけしていただけるよう、また、要望は真摯に聞き入れる様にしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や必要時の面談には出席し、意見の交換が出来るようにしている。コロナ禍により個人面談は休止している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援を法人全体で実施している。資格がとりやすい環境づくりと取得後は手当の支給が出来ている。時間外労働は減ってきているが、有給休暇取得に偏りがあり課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修へ階層別、職種別に参加している。近年オンライン研修が多くなり、多種多様な研修に参加しやすくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームがネットでつながり、研修情報や空床情報等確認できる場がある。また、地域密着型会議に参加し管理者同士意見を交わしたり、保育園児の太鼓演奏の際に近隣のGHを招き、管理者や職員の交流が出来た。今後も継続したいと感じた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実調を行い、身体状況・認知症上などアセスメント収集をし、入居後は戸惑いや不安を抱かない様寄り添い、生活に慣れてきたら徐々に距離を保ちながら安心できる信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ渦であっても短時間面会を呼びかけたり、些細なことでも情報を電話などでお知らせしている。その際にご要望やご意見をいただきながら、安心して生活できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族のお話や行動により必要な支援を確認しあいながら決定している。確認が必要な時はご家族や以前利用していた事業所等より情報をいただきながら速やかな対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りを主として、一部支援により自立を促せるよう努力している。何かしら役割を持っていたくことで一瞬でも満足感とやりがいを感じていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を写真や広報誌で送り、電話や面会時には職員がお話させていただいている。また、自宅で使っていた道具や衣類なども持参していただき、安心して生活できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医には出来るだけ家族とお願いしている。コロナ渦により知人や友人と会う機会は減っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士のコミュニケーションを大切にしながらも、必要時はさりげなく誘導し孤立しない様、常に観察している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住処給が必要となり別の施設に移ったとしても、必要な情報を提供しご本人が困らないようにしている。また、支援が終了してもお盆や彼岸など職員がお宅へ伺うケース(全員ではないが)もあり、関係を切らない様出来る範囲での努力はしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話や行動、表情などを観察し、本人の思いや意向の把握に努め、その人らしい生活が送れる様配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人との会話や家族の面会時などに情報を得ることが多い。よりよい支援ができる様、職員同士の情報の共有を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後しばらくは行動観察をする。本人のペースに合わせながら残存機能を維持できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケース記録で情報を共有し、カンファレンスでサービスに関する意見を話し合っている。日々の些細なことは早めに状況を把握し、介護計画に反映させる努力をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には本人の状態や話した言葉、職員の対応などを記録し、申し送り確認し、情報を共有している。日々の変化を意識し見直しを図るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の要望を出来る限り対応できるようにカンファレンスや会議を開催しサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍によりボランティア受け入れや認知症カフェなどの交流が出来ていない。しかし、地元の高校生が季節ごとにカードや手紙を持参してくれたり、保育園の太鼓の演奏を庭で実施するなど、工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前に、本人と家族の希望を伺い決定している。入居後も変わらず今までの病院を受診できるよう、家族に情報を伝達したり連絡票にてかかりつけ医との連携を図っている。協力病院は受診後家族にとの都度報告をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師がおり、週2回出勤している。日々の情報を共有したり相談したりしている。24時間オンコール対応してくれているため、緊急時も電話により相談が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携を図り、緊急時も病院へ連絡できる状況となっている。入院後は、家族の意向等を伝えながら定期的に面会をし、スムーズな退院を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化についてはご家族に対し「住み替え」も一つの選択肢として提案をさせていただき、出来るだけ希望に添った支援をしている。終末期についてもご家族やご本人の希望を最優先し、支援に対する考え方によって地域との連携体制を整えていくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で普通救命講習会を実施しているため、新採用者を優先し交代で参加している。また、アルソックの救急救命講習も依頼し実施する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は夜間と日中を想定し年間4～5回程度行っている。2年ほど前から水害を想定した車による避難経路確認訓練も行っている。地域との合同訓練も年2回実施しているが今年は図上訓練と避難方法の1回ではあったが実施できた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思を尊重し支援が行えるよう常に職員同士が声をかけ話し合えるサービス向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを日常の会話や表情などを注意深く見ることで自己決定のお手伝いをしている。ささいなことでも職員が決めてしまわない様、選択をしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ「その人らしい暮らし」ができる様日々の行動や表情を読み取り柔軟に対応するよう、また、押し付けにならない様努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	中々外出が出来ないが、日常生活の中で帽子や小物などを使い身だしなみを整えたりひげをSれる方には声掛けをしたりしている。訪問理容の際は、髪型やカラーリング等本人の意向に沿い実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	メニューを一緒に決めたりできる範囲で手伝っていただきながら、食べる楽しみを味わっていただいている。旬の食材を使ったときは季節の話や昔の話をして楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好や摂取量、接種時間配慮し状況によって栄養補助食品などを利用している。水分は食事やお茶の時間以外にも声掛けを支援している。栄養バランスについては法人内の栄養士に相談することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼の食後はお茶を飲んだりうがいをして汚れを洗浄している。夕食後は歯磨きをしたり、義歯を外しうがいや洗浄し個別に洗浄消毒を実施。外したがない時は時間をかけて声掛けするなど工夫をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、食前食後のトイレ誘導や声掛けをしている。座位がとれる方には時間でトイレに座っていただいている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために普段の食事に発酵食品を積極的に取り入れている。ご家族の御理解により個人的に乳製品を購入するなどしている。また、テレビ体操や家屋内の往復など運動も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調により、一番風呂やくつくり後から入りたい等希望に合わせて実施している。季節に応じ入浴剤なども楽しめる様配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調を職員が把握し、昼寝をしたり布団乾燥機で寝具の環境を整えたり電気毛布や湯たんぽなど配慮している。部屋の温度や湿度も季節や天気調節し照明なども考え、安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診時に薬の追加や変更があったときは、付き添った職員が口頭で周知すると同時に、処方された薬の説明書を読み(ケース記録に最新用紙を綴じている)目的や副作用を知ることが出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴、歌をうたう、ドラマを観る、食事づくりの手伝いをする、部屋の掃除をするなど、自宅で過ごしてきたことを継続できるよう、また、新しい張り合いが持てる様その方にあった支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出は控えているが、少人数でのドライブや庭の散策などを実施している。家族や地域との協力は難しい状況である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を所持している方はいるが、希望により「立替」を実施している。立替金を本人に渡し、移動販売や自動販売機などを利用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話対応はもちろん、自分からかける事前に時間を合わせ話していただいている。手紙も「元気です」や「ありがとう」等自筆で書いて頂きやり取りができる様環境づくりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍のため換気の実施はタイマーを使用している。季節の花を飾ったりBGMを流すなどゆったりと出来る雰囲気を作っている。また、照明は電球色を取り入れ、目に優しい配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に行き来できる雰囲気作りをしている。気分や体調に合わせてソファやイスなど多く配置し、一人になれる場所を意図的に提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時には、在宅で使用していたタンスや小物を持参していただき自宅と似た環境作りをしている。ご家族の写真や好きな物を身近のおくことで庵下生活に近づけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体機能に合わせ、ベッドの配置や手すりの位置、夜間のトイレの電気など少しの配慮で自立できるよう考えながら支援している。		